

依頼表現としての「ていただきたいです」 —若年層による適切度判定—

東泉裕子・高橋圭子

要旨

配慮表現の1つである依頼表現は、新しい表現が次々に出現する。本稿では、新たな依頼表現として使われている願望型の「ていただきたい」の適切度判定の調査を、若年層を対象に実施した。口頭とメールの場合について、「ていただきたいです」という言い切りと「ていただきたいのですが」という非言い切りの適切度判定を調査した結果、口頭では言い切り・非言い切りとも適切度は高く判定され、メールでは言い切りのほうが非言い切りよりも適切度が高く判定されていた。「ていただきたいです」は、受けとめ方に個人差もあるが、若年層で丁寧な依頼表現として定型化しつつある可能性がある。中高年層の適切度判定の調査など、さらに研究を進めるとともに、アカデミック・ジャパニーズの分野においても学習者への提示の適否を考えていくことが期待される。

キーワード

依頼表現、願望型、言い切り、非言い切り、「ていただきたいです」

1. はじめに

配慮表現は、「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」（山岡他 2018、p. 159）であるが、使われているうちに配慮の意がすり減り、他の新たな表現が使用されるようになっていく（井上 1999 など）。依頼表現はその一つであり、日本語教育においては新しい表現の学習者への提示の適否に戸惑うことがある（高梨 2020 など）。

本稿では、「ていただきたいです」という新たな依頼表現に焦点をあて、これに対する20歳前後の大学生の受けとめ方を調査し、その結果を報告する。

2. 先行研究

依頼表現についての先行研究は多数ある。そのうち、高橋・東泉（2019、2021a）はペンや本を借りる依頼表現として(1)～(4)のような例を挙げ、それぞれ、従来型・許可求め型・可能型・願望型と呼んでいる。

- (1) 貸していただけますか
- (2) 貸していただいてもよろしいですか
- (3) 貸していただくことは可能ですか
- (4) 貸していただきたいです

従来型は、日本語の教科書などでも取り上げられている従来の丁寧な依頼表現であり、

「て {もらえ/いただけ} {ます/ません} (でしょう) か」などのバリエーションがある。許可求め型は「て {もらっ/いただい} て (も) {いい/よろしい} {です/でしょう} か」、可能型は「て {もらう/いただく} ことは {可能/できる} {です/でしょう} か」、願望型は「て {ほしい/もらいたい/いただきたい} です」などの形式がある⁽¹⁾。

高橋・東泉 (2019) は従来型・許可求め型・可能型の適切度判定について世代間調査を行い、許可求め型・可能型への評価は若年層 (10~20 代の大学生) が中高年層 (30 代以上の社会人) より有意に高いことを報告している。また、高橋・東泉 (2021b) は願望型も加えた 4 種類の依頼表現について若年層による適切度判定を調査し、従来型と許可求め型の評価が有意に高く、願望型の評価は個人差が大きいことを報告している。

可能型や願望型は依頼表現として新しく、先行研究は多くない⁽²⁾。中でも「ていただきたい」の使用実態や意識の調査は少ない。そこで、本稿では「ていただきたい」に焦点をあて、若年層による適切度判定について調査する。

3. 調査の概要

3.1 リサーチ・クエスチョン

願望型は新たな依頼表現であり、その受けとめ方には世代差や個人差が大きいと考えられる。適切度判定に影響を与える要因にはさまざまなものが考えられるが、本稿では媒体と文型に着目し、(5) のようなリサーチ・クエスチョンのもとに調査を行う。

- (5) 口頭とメールという媒体において、言い切りと非言い切りという文型の相違は、適切度判定に影響があるか。

媒体については、韻律や非言語情報が加わる口頭での表現と、文字情報のみのメールとでは受けとめ方が異なる可能性があるため、各々について適切度判定の比較を試みる。

文型については、「ていただきたいです」という言い切りと「ていただきたいのですが」という非言い切りの適切度判定を比較する。従来、言い切りの断定口調は直接的で強すぎるため、非言い切りのほうがやわらかく適切であるとされてきた (日本語記述文法研究会編 2009、p. 284 など)。一方、高橋・東泉 (2019) によれば、若年層の用いる依頼表現は従来型・許可求め型・可能型のいずれも、「でしょうか」というやわらげや否定形「ないですか/ませんか」の使用は少なく、「ですか/ますか」という肯定の言い切りの疑問形式が多用されているという。そこで、言い切りと非言い切りとで適切度判定に違いがあるか調査することにした。

3.2 調査の内容

2021 年 1 月に、東京都内の A 大学に在学する学生を対象として、オンラインによるアンケート調査を実施した。有効回答数は 293 であった⁽³⁾。内容は下記のとおりである。

Q1 年配の上司に【口頭で】資料の確認を頼む場合、(ア)~(カ)の表現は適切だと思いますか。4 段階で判定してください。

1. とても適切だ 2. やや適切だ 3. あまり適切でない 4. 全く適切でない

(ア) この資料を確認していただきたいのですが.....。 (イ) この資料を確認していただきたいです。 (ウ) この資料を確認してほしいのですが.....。 (エ) この資料を確認してほしいです。 (オ) この資料を確認してもらいたいのですが.....。 (カ) この資料を確認してもらいたいです。
Q2 年配の上司に【メールで】資料の確認を頼む場合、(キ)～(シ)の表現は適切だと思いますか。4段階で判定してください。 1. とても適切だ 2. やや適切だ 3. あまり適切でない 4. 全く適切でない
(キ) この資料を確認していただきたいのですが、どうぞよろしく願います。 (ク) この資料を確認していただきたいです。どうぞよろしく願います。 (ケ) この資料を確認してほしいのですが、どうぞよろしく願います。 (コ) この資料を確認してほしいです。どうぞよろしく願います。 (サ) この資料を確認してもらいたいのですが、どうぞよろしく願います。 (シ) この資料を確認してもらいたいです。どうぞよろしく願います。
このアンケートに関して感じたこと・思ったことがあれば、何でも自由に書いてください。

3.3 調査結果

表1は、Q1・Q2の回答をまとめたものである。

表1 A 大学若年層による依頼表現の適切度判定

				とても適切だ		やや適切だ		あまり適切でない		全く適切でない	
				回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
口頭	(ア)	ていただきたい	非言い切り	137	47	122	42	32	11	2	1
	(イ)	ていただきたい	言い切り	121	41	127	43	41	14	4	1
	(ウ)	てほしい	非言い切り	5	2	60	20	168	57	60	20
	(エ)	てほしい	言い切り	7	2	55	19	135	46	96	33
	(オ)	てもらいたい	非言い切り	12	4	83	28	144	49	54	18
	(カ)	てもらいたい	言い切り	4	1	55	19	144	49	90	31
メール	(キ)	ていただきたい	非言い切り	70	24	92	31	109	37	22	8
	(ク)	ていただきたい	言い切り	175	60	95	32	19	6	4	1
	(ケ)	てほしい	非言い切り	6	2	38	13	174	59	75	26
	(コ)	てほしい	言い切り	14	5	62	21	145	49	72	25
	(サ)	てもらいたい	非言い切り	9	3	54	18	143	49	87	30
	(シ)	てもらいたい	言い切り	13	4	73	25	137	47	70	24

まず、「ていただきたい」「てほしい」「てもらいたい」の3種類の表現の適切度判定を確認する⁽⁴⁾。表1の回答数から各種類を合計して表2を作成し、これに基づきカイ2乗検定を行ったところ、(6)のとおり、有意であった。ここから、3種類の表現の適切度判定の回答分布には偏りがあると言える。

表2 「願望型」の適切度判定の回答数

	とても適切だ	やや適切だ	あまり適切でない	全く適切でない	計
ていただきたい	503 (191.0)	436 (305.3)	201 (463.7)	32 (212.0)	1172
てほしい	32 (191.0)	215 (305.3)	622 (463.7)	303 (212.0)	1172
てもらいたい	38 (191.0)	265 (305.3)	568 (463.7)	301 (212.0)	1172
計	573	916	1391	636	3516

() 内は期待値

$$(6) \quad \chi^2(6, N = 3516) = 1308.147, V = .431, p = .000$$

そこで、残差分析を行った結果、表3のすべてのカテゴリーに有意性が見られた。つまり、「ていただきたい」は「とても適切だ」「やや適切だ」とする判定が有意に多く、「あまり適切ではない」「全く適切でない」とする判定が有意に少ない。一方、「てほしい」「てもらいたい」は「とても適切だ」「やや適切だ」とする判定が有意に少なく、「あまり適切ではない」「全く適切でない」とする判定が有意に多い。ここから、「ていただきたい」は「てほしい」「てもらいたい」に比べ、依頼表現として適切と判定されていると言える。

表3 「願望型」の適切度判定の調整済み残差

	とても適切だ	やや適切だ	あまり適切でない	全く適切でない
ていただきたい	30.2*	10.7*	-19.2*	-16.7*
てほしい	-15.4*	-7.4*	11.6*	8.5*
てもらいたい	-14.8*	-3.3*	7.6*	8.3*

* $p < .01$

次に、「ていただきたい」に注目してさらに分析を進める。

4. 「ていただきたい」の量的分析

4.1 口頭の場合

ここでは、(5)のリサーチ・クエスションのうち、口頭における「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの適切度判定を比較する。

表1の回答数から表4を作成し、これに基づきカイ2乗検定を行った。(7)のとおり、

口頭の場合、言い切りと非言い切りの適切度判定には有意な差がなかった。ここから、言い切りと非言い切りの適切度判定の回答分布には偏りがないと言える。

表 4 口頭における「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの適切度判定の回答数

	とても適切だ	やや適切だ	あまり適切でない	全く適切でない	計
非言い切り (ア)	137 (129.0)	122 (124.5)	32 (36.5)	2 (3.0)	293
言い切り (イ)	121 (129.0)	127 (124.5)	41 (36.5)	4 (3.0)	293
計	258	249	73	6	586

() 内は期待値

$$(7) \quad \chi^2(3, N=586) = 2.869, V = .070, p = .412$$

つまり、口頭の場合、「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの適切度判定には有意な差がなく、両者とも若年層には依頼表現として適切だと判定されていると言える。

4.2 メールの場合

次に、メールにおける「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの適切度判定を比較する。

表 1 の回答数から表 5 を作成し、これに基づきカイ 2 乗検定を行ったところ、(8) のとおり、有意であった。ここから、メールにおける言い切りと非言い切りの適切度判定の回答分布には偏りがあると言える。

表 5 メールにおける「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの適切度判定の回答数

	とても適切だ	やや適切だ	あまり適切でない	全く適切でない	計
非言い切り (キ)	70 (122.5)	92 (93.5)	109 (64.0)	22 (13.0)	293
言い切り (ク)	175 (122.5)	95 (93.5)	19 (64.0)	4 (13.0)	293
計	245	287	128	26	586

() 内は期待値

$$(8) \quad \chi^2(3, N = 586) = 120.791, V = .454, p = .000$$

そこで、残差分析を行い、表 6 のような結果を得た。すなわち、メールでは「ていただきたいのですが」という非言い切りは「とても適切だ」とする判定が有意に少なく、「あまり適切ではない」「全く適切でない」とする判定が有意に多い。一方、「ていただきたいです」という言い切りは「とても適切だ」とする判定が有意に多く、「あまり適切ではない」「全く適切でない」とする判定が有意に少ない。

表6 メールにおける「ていただきたい」の言い切りと非言い切りの

適切度判定の調整済み残差

	とても 適切だ	やや 適切だ	あまり 適切でない	全く 適切でない
非言い切り	-8.8*	-0.3	9.0*	3.6*
言い切り	8.8*	0.3	-9.0*	-3.6*

* $p < .01$

ここから、メールでは「ていただきたいです」という言い切りのほうが、非言い切りよりも適切度が高く判定されていると言える。

5. 「ていただきたい」の質的分析

ここでは、自由記述回答をとおして願望型依頼表現の適切度判定における個人差を探る。

- (9) a. 「～してもらいたいです。」や「～してほしいです。」のこの言い切りの形の二つは、先方の都合をうかがわず、失礼なイメージを与えると考えた。やはり、目上の人に頼みごとをするのであれば、言い切りの形はよくないとこのような形で比較することによって感じる事ができた。
- b. 「～なのですが、」という風に言うと「(本当に申し訳ないと思っているのですが、) お願い事があります。」ということが伝わるのではないかと思いました。
- c. 口頭で「～たいです。」と言い切られると少し稚拙な感じや押し付けてくる感じがあるが、文面ではそれがあまりないのが不思議だと思った。
- d. 口頭で話している場合など、言い切りの形でないと私個人としてはあまり適切でないと感じることが多かった。
- e. 私自身「ですが…」と申し訳なさそうに言うと思いますが、優柔不断な印象を与えるので「です。」と断定で言い切った方がしっかりとしていて良いのかもしれないと思いました。
- f. 口頭で上司に頼みごとをする場合、もし自分が上司だったら「～していただきたいのですが…」と「～していただきたいです。」はどちらも丁寧であると感じ、受け取り方は変わらないと思うが、人によっては前者のほうだと、途中で言葉を止めてしまっていて曖昧なままになっているため、適切ではないと思う人もいるかもしれないと思いました。
- g. メールの場合は、だらだらと長文を書くのではなく要件をはっきり書いた方が相手のことを考えている印象があります。
- h. です・ますを付けていれば、全く不適切ともいえないようにも感じられた。
- i. 特に口頭において敬語がかえって相手に距離を感じさせる場合もあるため各々の関係性に応じた程度の敬語を心掛けるべきだと考えます。
- j. これまで先生や目上の方へのメールとして、関係性の強い方には良かれと思って親しげに作成してしまっていたことに気がついた。

(9a)・(9b)・(9c) は言い切りを不適切、非言い切りを適切とする受けとめ方であり、従来の受けとめ方(3.1 節)と同様である。他方、(9d)・(9e)・(9f)・(9g) は、非言い切りの曖昧性・冗長性・優柔不断さより、言い切りの簡潔性を適切としており、従来とは異なる。後者の新しい受けとめ方の要因の解明は今後の課題だが、若年層の中にも、言い切り・非言い切りの双方の依頼表現に対して、それぞれに多様な受けとめ方があることがわかる。

また、(9f)・(9h) は、言い切りと非言い切りのいずれも丁寧であるとしており、これは、敬語使用の中心が尊敬語や謙譲語より丁寧語である趨勢と軌を一にする。(9i)・(9j) には上下より親疎を重視する、若い世代のポジティブ・ポライトネス志向(村田 2005 など)がうかがわれる。

6. 考察

本稿の調査から、「ていただきたいです」は、個人差はあるものの、若年層に適切な依頼表現として受けとめられていることがわかった。以下では、「ていただきたいです」の依頼表現としての使用について、若干の考察を試みる。

依頼は、話者の利益のために相手に何らかの行為を求める行為指示(directive)の一種であり、相手にかかる負荷が大きい。また、断りという負荷の大きい行為を相手にさせるリスクもある。さらに、本稿で調査した依頼表現のうち、従来型・許可求め型・可能型はいずれも疑問形式をとり、相手に対して回答を求めるという負荷をかける。これらに対して、願望型は自分の内心の陳述(statement)であり、相手にかかる負荷が大きい行為指示とは異なる。若年層は、相手に負荷をかけることを極力避ける心配り・配慮・やさしさを最優先する世代であると言われている(森 2008、榎本 2016 など)。このため、相手にかかる負荷が行為指示より小さい陳述の願望型のほうが依頼表現として適切と受けとめられていると考えられる。特に、「ていただきたいです」には「いただく」という恩恵を受ける意の謙譲語、「です」という丁寧のマーカ(井上 1999 など)が用いられており、若年層にとっては適切度の高い依頼表現として受けとめられているのだろう。また、非言い切りより言い切りが適切と受けとめられるのも、非言い切りが推論の負荷を相手かけると若年層が捉えているためかもしれない。

近年、謙譲表現として「させていただきます」が多用され、特に「させていただきます」という言い切りの形が盛んである。使役・恩恵の受容・謙譲という要素に分解せず、「させていただきます」全体で謙譲表現として定型化しているとの指摘もある(椎名 2021 など)。同様に、「ていただきたいです」も丁寧な依頼表現として定型化しつつあるのかもしれない。引き続き注目していきたい。

7. おわりに

本稿では、「ていただきたいです」という言い切りが若年層で丁寧な依頼表現として定型化しつつある可能性を指摘した。ただし、口頭とメールという媒体の相違については、適切度に差があることが示唆されたが、詳細は未解明である。メールでは言い切りのほうが適切と受けとめられているという点は、メールの書き方などの教育・指導と関連がある

かもしれない。今後、教育・指導による影響の調査、中高年層の適切度判定の調査、コーパスなどによる使用実態の調査などを行い、解明を進めていきたい。

(東泉裕子ひがしいずみゆうこ・東洋大学)

(高橋圭子たかはしけいこ・東洋大学)

注

1. 記号の意味は次のとおりである。{a/b} : a または b、() : 任意。なお、従来型・許可求め型・可能型には、授受表現の「もらう」やその謙譲語の「いただく」を補助動詞として用いるイタダク系と、授受表現の「くれる」およびその尊敬語の「くださる」を補助動詞として用いるクダサル系があるが、イタダク系のほうが多用され(滝浦 2020 など)、適切度判定も高い(高橋・東泉 2021b)。願望型はイタダク系のみである。
2. 「てほしい」については高梨(2020)が現代語の使用実態を、「てもらいたい」「ていただきたい」については荻野(2022)がその歴史を調査している。
3. この調査は研究目的であり、分析結果の公表により個人が特定されることはない旨、回答者から了解を得た。なお、システムの都合上、調査対象表現の提示順は回答者全員同じである。また、回答者の属性として、性別・生年・義務教育期間で最も長く暮らした都道府県名を答えてもらった。内訳は次のとおりである。性別：女 207名、男 85名、回答しない 1名。生年：1998年 23名、1999年 86名、2000年 142名、2001年 38名、その他 4名。義務教育(20名以上のみ)：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県。
4. 本稿の調査で適切度判定に用いられたものは順序尺度で、質的変数である。カイ 2 乗検定は、質的変数同士の連関(association)の有意性を統計的に検討する手法である(近藤・小森編 2012、p. 319)。また、残差分析とは、カイ 2 乗検定の結果が有意であった場合に、どの観測値が有意性に貢献したかを判定する方法であり、調整済み残差の絶対値が 1.96 より大きい場合は 5%水準、2.58 より大きい場合は 1%水準で、その観測値は有意であると判定される(田中・山際 1992、pp. 262-263)。なお、統計ソフトは IBM SPSS Statistics 24 を用いた。

謝辞

アンケート調査にご協力くださった皆様、統計処理についてご教示くださった新井保裕氏、原稿を丁寧に読み有益なコメントをくださったアドバイザーおよび編集委員会諸氏に感謝申し上げます。また、本研究は JSPS 科研費 20K00650 の助成を受けています。

参考文献

- 井上史雄(1999)『敬語はこわくない』講談社現代新書
 榎本博明(2016)『やさしさ過剰社会』PHP 新書
 荻野千砂子(2022)「テモラウの依頼用法」椎名美智・滝浦真人(編)『「させていただく」大研究』くろしお出版, 121-154.
 近藤安月子・小森和子(編)(2012)『研究社日本語教育事典』研究社
 椎名美智(2021)『「させていただく」の語用論』ひつじ書房

- 高梨信乃 (2020) 「「てほしい」はどのように用いられているか」『関西大学外国語学部紀要』23, 43-58. <https://www.kansai-u.ac.jp/fl/publication/pdf_department/23/43_takanashi.pdf> (2023年2月18日閲覧)
- 高橋圭子・東泉裕子 (2019) 「配慮を理解していただくことは可能ですか—新しい依頼表現と世代差—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』11, 37-45.
- 高橋圭子・東泉裕子 (2021a) 「大学生の依頼メールにおける配慮表現」『コミュニケーション文化』15, 83-91.
- 高橋圭子・東泉裕子 (2021b) 「配慮を理解していただきたいです—新旧の依頼表現に対する若年層の適切度判定—」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』13, 36-44.
- 滝浦真人 (2020) 「『ポライトネスの原理・原則』と日本語ベネファクティブの敬意漸減」, 加藤重広・滝浦真人 (編) 『日本語語用論フォーラム 3』ひつじ書房, 75-104.
- 田中敏・山際勇一郎 (1992) 『新訂 ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで—』教育出版
- 日本語記述文法研究会編 (2009) 『現代日本語文法 7』くろしお出版
- 村田和代 (2005) 「ポライトネスから見る若者ことばの機能—龍谷大学キャンパス語の分析を通して—」『龍谷大学国際センター研究年報』14, 25-37. <<https://mylibrary.ryukoku.ac.jp/iwjs0005opc/TD00308013>> (2023年2月18日閲覧)
- 森真一 (2008) 『ほんとはこわい「やさしさ社会」』ちくまプリマー新書
- 山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2018) 『新版 日本語語用論入門—コミュニケーション理論から見た日本語—』明治書院